

授業名	英語教育ゼミナールA-1	開講年度学期	2026 年 1 期
担当教員	佐取 美紀		
主要テーマ と 学習目標	【主要テーマ】 第二言語習得研究にもとづく効果的な英語学習法・指導法 【授業の概要】 第二言語習得の認知プロセスを、母語習得との比較を通して深く考察します。具体的には、高等学校の検定教科書や映画、音楽などのリソースを活用し、インプット、インタラクション、アウトプットが学習に果たす役割に焦点を当てた効果的な英語学習・指導法を学びます。さらに、第二言語習得において影響を与える認知的、能動的、情意的要因による学習者の個人差を検討するため、自己の英語学習動機、不安、言語適性、認知スタイル、学習スタイル、ワーキングメモリーなどを測定します。これにより、多様な学習者の特性に応じた個別最適な指導方法について考察を深めます。また、学習者の個人差を生むもう一つの大きな要因である学習ストラテジーにも焦点を当て、自己の学習法を見直しながら、指導に活用する機会を提供します。 【学習目標】 本ゼミを通じて、科学的な思考方法を習得するとともに、グループでの協働的な課題解決能力を養います。さらに、学んだ知識を活用し、自己の英語運用能力やプレゼンテーションスキルを向上させ、効果的な授業デザインのための創造力を育みます。 【授業方法】 毎回のテーマに関するグループディスカッションと発表を中心に進めます。自分の考えを積極的に発信するとともに、他者の意見を尊重してくださる方の参加を歓迎します。		
授業計画	第 1 回 インTRODakション・グローバル社会の英語教育 第 2 回 ESL と EFL の違い・言語間距離・日英対照分析 第 3 回 外国語学習に成功する人・しない人、言語適性と英語学習 第 4 回 第二言語習得の認知プロセス（母語習得と比較して） 第 5 回 インプット重視の第二言語学習法・指導法、リスニングと音読の関係 第 6 回 インタラクション重視の第二言語学習法・指導法 第 7 回 アウトプット重視の第二言語学習法・指導法 第 8 回 フォーカス・オン・フォームによる文法の習得、明示的指導と暗示的指導 第 9 回 第二言語学習と個人差（1）動機づけ・学習不安・グリット 第 10 回 第二言語学習と個人差（2）学習スタイル・認知スタイル 第 11 回 第二言語学習と個人差（3）学習方略・メタ認知・ワーキングメモリー 第 12 回 まとめとプレゼンテーション（1） 第 13 回 まとめとプレゼンテーション（2） 第 14 回 まとめとプレゼンテーション（3） 第 15 回 まとめとプレゼンテーション（4）		
成績評価	テーマごとの課題：60% グループディスカッション：20% プレゼンテーション：20%		
使用教科書	廣森友人（2023）「英語学習のメカニズム」大修館 Li, S., Hiver, P., & Papi, M. (Eds.) (2022) <i>The Routledge handbook of second language acquisition and individual differences</i>. Routledge.		
備考	Language learning strategies and motivationの授業を同時に履修することを推奨します。		

授業名	英語教育ゼミナールA-2	開講年度学期	2026 年 2 期
担当教員	佐取 美紀		
主要テーマ と 学習目標	【主要テーマ】 第二言語習得研究にもとづく効果的な英語学習法・指導法 【授業の概要】 言語を使用する際に表れる相手への配慮や文化的な背景の違いが、どのようにコミュニケーションに影響を与えるかについて考察します。特に、社会言語能力の一環としての「ポライトネス」や、文化によるコミュニケーションスタイルの違いが誤解を生む要因に焦点を当て、これらが第二言語学習および社会的・文化的要因とどのように関連するかを探求します。さらに、学習者の社会言語能力を高めるための効果的な英語学習法・指導法についても紹介します。また、“Empowerment”と“Enlightenment”という 2 つのキーワードを基軸に、なぜ私たちが第二言語（英語）を習得する必要があるのか、またその学びが個人と社会にどのような影響を与えるのかを考えます。加えて、英語教育や第二言語習得に関する英語論文の批判的な読み解き方や、統計データの分析方法についても学び、研究成果の評価に必要なリテラシーを高めます。 【学習目標】 本ゼミを通じて、科学的な思考方法を習得するとともに、グループでの協働的な課題解決能力を養います。さらに、学んだ知識を活用し、自己の英語運用能力やプレゼンテーションスキルを向上させ、効果的な授業デザインのための創造力を育みます。 【授業方法】 毎回のテーマに関するグループディスカッションと発表を中心に進めます。自分の考えを積極的に発信するとともに、他者の意見を尊重してくださる方の参加を歓迎します。		
授業計画	第 1 回 イントロダクション・第二言語コミュニケーション能力の構成要素 第 2 回 社会文化要因と第二言語学習（1）第二言語使用におけるポライトネス 第 3 回 社会文化要因と第二言語学習（2）コミュニケーションスタイル 第 4 回 社会言語能力を育てる英語学習法（映画・ドラマを活用した表現集の作成） 第 5 回 社会言語能力を育てる英語指導法（談話完成タスクの作成） 第 6 回 第二言語（英語）学習の目的 第 7 回 統計学の基礎（記述統計・相関・重回帰分析・因子分析） 第 8 回 教室 SLA 研究と英語学習・英語教育（1）学習者要因 第 9 回 教室 SLA 研究と英語学習・英語教育（2）自己調整学習 第 10 回 教室 SLA 研究と英語学習・英語教育（3）協働的学習 第 11 回 教室 SLA 研究と英語学習・英語教育（4）テストの開発・信頼性・妥当性 第 12 回 まとめとプレゼンテーション（1）文献レビューまたは模擬授業 第 13 回 まとめとプレゼンテーション（2）文献レビューまたは模擬授業 第 14 回 まとめとプレゼンテーション（3）文献レビューまたは模擬授業 第 15 回 まとめとプレゼンテーション（4）文献レビューまたは模擬授業		
成績評価	テーマごとの課題：50% グループディスカッションおよびプレゼンテーション：30% 期末のレポート：20%		
使用教科書	村野井仁（2014）「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」大修館 Loewen, S., & Sato, M. (Eds.) (2017) <i>The Routledge handbook of instructed second language acquisition</i>. Routledge.		
備考			